

回数	散布時期	対象病害虫	薬剤名	倍率(100%当り薬量)		収穫前日数	回数	10a 散布量	摘要
特別①	4月上旬～中旬 (カイガラムシ類幼虫の発生タイミングにあわせて実施すること)		展着剤(アピオンE)	1000倍	100 ml			200g	カイガラムシの発生がある園地では、粗皮を削り本剤を散布する。
		カイガラムシ類幼虫	アフロード水和剤	1000倍	100 g	開花期まで	2回以内		
1	5/20～25		展着剤(ハイテンパワー)	5000倍	20 ml				
		落葉病 うどんこ病 炭疽病	オキシンドー水和剤80	1000倍	100 g	14日前まで	5回以内	300g	
		カキクダアザミウマ チャノキイロアザミウマ	ジェイエース水溶剤	1500倍	66 g	45日前まで	2回以内		
2	6/5～10 (開花始期)		展着剤(ハイテンパワー)	5000倍	20 ml				
		落葉病 うどんこ病 炭疽病 灰色かび病 すす点病	ベルコート水和剤	1500倍	66 g	14日前まで	3回以内	300g	前年落葉病が発生した圃場では、2回目から6回目の防除は規定散布量を必ず行う。
		チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ カメムシ類	ロティエ水和剤 (劇)	1500倍	66 g	7日前まで	3回以内		
特別②	6/15頃	落葉病 うどんこ病 炭疽病	ドキンフロアブル	1000倍	100 ml	14日前まで	5回以内	300g	
3	6/20～25		展着剤(ハイテンパワー)	5000倍	20 ml				
		落葉病 炭疽病 うどんこ病	スコア顆粒水和剤	3000倍	33 g	前日まで	3回以内	300g	葉面散布石灰資材(フォリオマックス)を混用すると果実の硬度維持や黒変果の軽減が期待できる。但しリン酸資材とは併用不可。
		カイガラムシ類 カキノヒメヨコバイ アザミウマ類 カキノハタムシガ カメムシ類	モスピラン顆粒水溶剤 (劇)	2000倍	50 g	前日まで	3回以内		カイガラムシ重点防除回 カイガラムシ類の発生が多い圃場では、3回目から5回目まで枝幹部へも薬液がかかるように実施する。
			フォリオマックス※	4000倍	25 g	—	—		
4	6/30～7/5		展着剤(アピオンE)	1000倍	100 ml				
		落葉病 炭疽病	ペンコゼブ水和剤	500倍	200 g	45日前まで	2回以内	300g	ペンコゼブ水和剤散布時に「肌のかぶれ症状」が発生する方はジマンダイセン水和剤500倍(収穫45日前まで、2回)を使用してもよい。
		チャノキイロアザミウマ カイガラムシ類	コルト顆粒水和剤	3000倍	33 g	前日まで	3回以内		
5	7/10～15		展着剤(ハイテンパワー)	5000倍	20 ml				
		落葉病 うどんこ病 炭疽病	オキシンドー水和剤80	1000倍	100 g	14日前まで	5回以内	300g	
		アザミウマ類 カメムシ類 コナカイガラムシ類	アクタラ顆粒水溶剤	2000倍	50 g	3日前まで	3回以内		
6	7/25～30		展着剤(ハイテンパワー)	5000倍	20 ml				
		落葉病 うどんこ病 炭疽病 灰色かび病 すす点病	ベルコート水和剤	1500倍	66 g	14日前まで	3回以内	300g	
		アザミウマ類 カイガラムシ類 イラガ類 ハスモンヨトウ	オリオン水和剤40 (劇)	1000倍	100 g	21日前まで	1回以内		
			フォリオマックス※	4000倍	25 g	—	—		
特別③	8/10頃		展着剤(ハイテンパワー)	5000倍	20 ml				
		うどんこ病 炭疽病	オンリーワンフロアブル	3000倍	33 ml	前日まで	3回以内	300g	カメムシが多い場合は必ず散布する。 (枝幹部へも薬液をしっかりとかけましょう)
		カキノヒメヨコバイ アザミウマ類 カキノハタムシガ カメムシ類	モスピラン顆粒水溶剤 (劇)	2000倍	50 g	前日まで	3回以内		
7	8/25～30		展着剤(ハイテンパワー)	5000倍	20 ml				
		すす点病 落葉病 炭疽病	トフジンM水和剤	1500倍	66 g	前日まで	6回以内	300g	この回まで十分な液量でしっかりと防除する。
		チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ カメムシ類	ロティエ水和剤 (劇)	1500倍	66 g	7日前まで	3回以内		
			フォリオマックス※	4000倍	25 g	—	—		
特別④	9/10～15頃								
		うどんこ病 炭疽病 落葉病	ナリアWDG ※※	2000倍	50 g	前日まで	2回以内	300g	早生品種の収穫時期が近い場合、使用時期に十分留意する。カメムシ類が多い場合はアクロスリン水和剤(劇) 2,000倍(収穫前日まで、3回以内)を散布する。 なお、カイガラムシ類の発生が多い圃場では、トランスフォームフロアブル2000倍(収穫前日まで、3回以内)を加用してもよい。
		アザミウマ類 カメムシ類 コナカイガラムシ類	アクタラ顆粒水溶剤	2000倍	50 g	3日前まで	3回以内		

ラベルを必ず確認し、登録内容(倍率、収穫前日数、回数など)を遵守してください!また器具の洗浄は十分に行ってください。

暦にない薬剤を使う場合は必ず指導員に相談してください。

※ストピットⅡの柿への登録はありますので在庫がある方は今年も使用できます。

※※WDG剤はさらさらとゆっくりとタンクの水に投入すると溶けやすい。一度に水に入れると固まるので注意すること。

住宅地における農業使用について

農業使用者は住宅地において農業の飛散防止措置を講ずるよう努めなければならないと規定されています。これを受けて、公共施設・住宅地に近接する場所における病害虫の防除については極力、農業散布以外の方法をとること。ただし、やむを得ず農業を使用しなければならない場合は注意事項(散布に関する事前の周囲への周知、飛散防止のための天候や時間帯に関する配慮)などの遵守に努め住民の健康に被害を及ぼすことのないように最大限配慮するようにしてください。